

## 上田市立産婦人科病院の分娩取扱中止と閉院について

上田市立産婦人科病院  
院長 徳平 厚

### 1 上田市立産婦人科病院のこれまでの経過

昭和27年に助産施設を市内に設置し、昭和43年には「上田市産院」として移転・開院。その後、施設の老朽化等により、平成24年に信州上田医療センターの隣接地に「上田市立産婦人科病院」として移転・開院し、地域の周産期医療の一端を担ってきました。

しかし、少子化等を背景とする分娩件数の減少に伴う経営不振と安定した医師の確保が困難な状態が続く中、地域の周産期医療体制を維持していくための当院の役割と経営のあり方について、市長から上田市立産婦人科病院運営審議会に対し諮問が行われました。(令和2年度第2回上小医療圏地域医療構想調整会議報告)

運営審議会からの答申を受け、信州上田医療センターとの再編・集約を進めることについて市民意見の募集を行い、令和3年11月に上田市立産婦人科病院のあり方(方針)を策定しました。

#### 【上田市立産婦人科病院のあり方(方針)の基本方針】

##### 1 地域周産期医療体制の基盤づくり

上田市立産婦人科病院と信州上田医療センターの医療機能の再編による安定的で持続可能な医療提供体制の構築。

##### 2 妊娠から出産、子育てへとつながる体制づくり

医療機関等と行政との連携による、支援を必要とする人を見逃さず、早期から相談や支援事業を活用できる体制の強化。

### 2 上田市立産婦人科病院の分娩取扱中止と閉院について

あり方方針に基づく信州上田医療センターとの再編・集約については、当院の医師確保の状況や経営状況の改善等の問題だけではなく、この地域で安心してお産ができる体制を築くことを主として進めました。

地域全体の出生数の減少に対して、当院の分娩を令和5年4月から信州上田医療センターに集約することで調整し、他の分娩取扱施設が経営を維持していくための環境を整えます。

そして、令和6年3月までに当院を閉院し、「医療を担う病院」と「政策的な支援を担う行政」の役割分担を明確にし、将来にわたる安全・安心な周産期医療提供体制の構築を進めるために連携します。

### **3 上田市立産婦人科病院の閉院後の圏域内の周産期医療体制**

当院の分娩を集約することにより、圏域内の分娩取扱施設数は減少しますが、信州上田医療センターの御理解と御協力により、増加する分娩に対応するための病棟改修等を行っていただき、圏域内の分娩取扱件数を減らすことなく、十分な受け入れ態勢を確保していただきます。

加えて、民間クリニック等では、分娩に一定以上のリスクを伴う妊婦等は、基幹病院等への緊急搬送が必要となることから、そういったハイリスク分娩にも、基幹病院である信州上田医療センターの医療機能の充実が図られることで、地域全体でお産を守る体制が強化されることに繋がると考えています。

### **4 病床数の推移**

現行 27 床（急性期） → 閉院 0 床

### **5 病床削減予定日（閉院）**

令和 6 年 3 月 31 日

### **6 病床機能再編支援事業の活用**

今般の閉院による病床削減計画は、国が地域医療構想の実現に向けた財政支援策として措置した病床機能再編支援事業を活用する予定です。